

ひがしいず 議会だより

2022 No.307

4月号

地元の食材でチャレンジ!!
P12で取り組みを紹介

議会HP



放課後児童クラブ民間委託へ・・・P2～3

予算審査の主な質疑・・・P4～5

常任委員会の活動報告・・・P7

一部事務組合からのお知らせ・・・P11

交流・定住促進を

ことから、例年より早い2月17日から3月7日までの19日間の日程を積むなどした一般会計予算等の34議案が提案され、審議の結果す

Pickup ③ 放課後児童クラブ運営民間委託

2,000万円

令和4年6月から民間委託を予定しており、放課後児童クラブ運営委託料として新たに計上する。



Pickup ④ 観光地域づくり整備事業

500万円

北川ねこさい広場整備工事及び北川遊歩道の街路灯取り換え工事を実施する。



令和4年度当初予算は広報ひがしいず4月号で見ることができます



令和4年度一般会計予算を可決

第1回 定例会

さらなる若者の

定例会の あらまし

令和4年第1回定例会は、3月に町長選挙が予定された
で開催し、骨格予算としながらも財政調整基金に1億円
べて原案通り可決しました。

Pickup ① ふるさと納税寄付推進事業



9,800万円

ふるさと納税の寄付謝礼
やポータルサイトシステム
などの利用料のほか、新た
にふるさと納税自動販売機
を設置し、納税寄付推進を
図る。

Pickup ② 交流・定住促進事業

1,800万円

人口増加を目的としたワーケ
ーション、お試し居住、きぼうの館
のエアコン設置、EASTDOCK改
修など若者の移住・定住を促進す
る。





有効活用を

予算を2月18日、21日、22日、3月2日の4日間にわたり審査を

その他主な質疑

財政運営

- Q コロナ関係予算の計上は。
- A 臨時交付金を活用したコロナ関連施策については、新町長の下で検討していく予定。
- Q ふるさと納税の拡大に向けた取り組みは。
- A 電子感謝券（電子クーポン券）の普及、ふるさと納税自動販売機の導入、ポータルサイトの広告強化、返礼品の充実等に取り組んでいく。

移住定住

- Q シティプロモーション事業30万円増額の要因は。
- A 企業のモニターツアーや渋谷でのPR イベント及び新規WEB構築により増額した。
- Q きぼうの館をワーケーション等に活用する方針が示されている中、管理を一元化すべきと思うが現状どのようになっているか。
- A 光熱費等維持費に関する費用は建設整備課、地域おこし協力隊に関する費用は企画調整課となっている。

町民生活

- Q ごみの減量化に関する補助制度は。
- A 電動生ごみ処理機に加えて容器式（コンポスト）の購入も補助対象に加えた。また、購入店舗を町外の業者まで拡大し、補助率も見直していく。
- Q 町のデジタル化への取り組みは。
- A 児童手当や介護保険関係など、26の申請業務についてシステム改修を実施する。具体的にはマイナンバーカードを利用して転入転出のオンライン申請が可能となる。
- Q 電子納税の導入とは。
- A 固定資産税・軽自動車税等について納付書にQRコードを印刷し、納税者の利便性と事務の効率化に取り組む。

教 育

- Q 幼稚園の統合に伴う園舎の改築や整備費等の予算は。
- A 現在は資材の入手が困難な状況のため当初予算に計上しなかったが、時期を見て検討したい。また、給食の搬入路についても検討中である。

安心安全

- Q 防災関連の食糧費が増加しているが。
- A 非常食の備蓄目標10万5千食を5か年で整備するためにアルファ米2万食を購入予定。

限られた財源の

第1回定例会で提出された令和4年度一般会計・特別会計の新年度行いました。審議の結果、以下の意見を付し予算を可決しました。

意見 1

行財政の抜本の見直しを

税収が減少傾向にある一方、町の役割や行政サービスのニーズは増加しており、町財政の柔軟性は失われつつある。社会保障費等の支出の増加を見据え、行財政の抜本的な見直しが必要である。



意見 2

ごみ減量化の推進を

ごみの減量・リサイクル率の向上は、焼却施設の維持・延命化に直結し、将来の町づくりに影響する課題であることから、その取り組みを強化すべきである。



意見 3

力を結集できる組織に

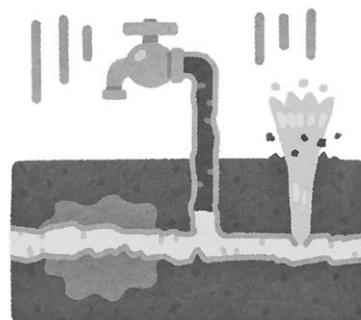
観光協会が一本化され、観光関連の委託・補助事業の多くを受託することとなる。観光立町の中心的団体として、今まで以上に効果的に事業実施できるよう組織や事務局の体制整備を図るよう指導されたい。



意見 4

一層の内部努力を

老朽化が進む設備の更新のために水道料金の改定は避けられない状況であるが、ダウンサイジングを含め内部努力を継続し、町民にも理解される事業実行を図られたい。



第 1 回定例会の議案と各議員の



○賛成 ×反対
 ※議長は採決に加わらない
 ※欠は欠席

議案名	採決結果	楠山節雄	笠井政明	※稲葉義仁	栗原京子	西塚孝男	須佐衛	村木脩	内山慎一	藤井廣明	鈴木勉	定居利子	山田直志
条例の一部改正等													
議案第1号 町長等の損害賠償責任の一部免責に関する条例制定	可決 (11:0)	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第2号 個人情報保護条例の一部改正	可決 (11:0)	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第3号 新型コロナウイルス感染症に伴う中小企業経済変動対策貸付資金利子補給基金条例の一部改正	可決 (11:0)	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第4号 静岡県市町総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び規約の変更について	可決 (11:0)	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第5号 指定管理者の指定について (片瀬地区防災センター)	可決 (11:0)	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
補正予算													
専決承認第1号 令和3年度一般会計補正予算 (第10号)	可決 (11:0)	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第6号 令和3年度一般会計補正予算 (第11号)	可決 (11:0)	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第7号 令和3年度国民健康保険特別会計補正予算 (第3号)	可決 (11:0)	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第8号 令和3年度後期高齢者医療特別会計補正予算 (第2号)	可決 (11:0)	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第9号 令和3年度介護保険特別会計補正予算 (第2号)	可決 (11:0)	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第10号 令和3年度稲取財産区特別会計補正予算	可決 (11:0)	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第11号 令和3年度風力発電事業特別会計補正予算 (第2号)	可決 (11:0)	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第12号 令和3年度水道事業会計補正予算 (第5号)	可決 (11:0)	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第21号 令和3年度一般会計補正予算 (第12号)	可決 (10:0)	○	○	—	欠	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第22号 令和3年度水道事業会計補正予算 (第6号)	可決 (10:0)	○	○	—	欠	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第23号 令和3年度国民健康保険特別会計補正予算 (第4号)	可決 (10:0)	○	○	—	欠	○	○	○	○	○	○	○	○
予算審査													
議案第13号 令和4年度一般会計予算認定	可決 (10:0)	○	○	—	欠	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第14号 令和4年度国民健康保険特別会計予算認定	可決 (10:0)	○	○	—	欠	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第15号 令和4年度後期高齢者医療特別会計予算認定	可決 (10:0)	○	○	—	欠	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第16号 令和4年度介護保険特別会計予算認定	可決 (10:0)	○	○	—	欠	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第17号 令和4年度稲取財産区特別会計予算認定	可決 (10:0)	○	○	—	欠	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第18号 令和4年度風力発電事業特別会計予算認定	可決 (9:1)	○	○	—	欠	○	○	○	○	×	○	○	○
議案第19号 令和4年度幼児教育アドバイザー共同設置事業特別会計予算認定	可決 (10:0)	○	○	—	欠	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第20号 令和4年度水道事業会計予算認定	可決 (10:0)	○	○	—	欠	○	○	○	○	○	○	○	○
同意案													
同意案第1号～第10号 農業委員会委員の選任	可決 (10:0)	○	○	—	欠	○	○	○	○	○	○	○	○

町民の福祉向上に向けた取り組み

一文教厚生常任委員会

1. 一時的に拠点が分かれている地域包括支援センター係と健康増進係については、同一拠点で一体的な業務運営が行えるよう、早急に調整を図ること。
2. 地域包括支援センター係に所属する専門的職員の能力を最大限に活用するため、事務作業等を補助する職員の増員を早急に検討すること。
3. 専門的職員が管理職となった場合、そのスキルを十分に活かさない状況が発生することも推測されるため、専門的職員の人事制度について検討すること。
4. 介護予防事業においては、今後低栄養のフレイルの方が多数顕在化してくると予想されるため、本事業に携わる管理栄養士の増員等、専門的職員も含めた強化及び配食サービスの対象拡大等について検討すること。
5. 重層的支援体制整備事業の事業実施に向け、関連する各部署及び関係諸団体との連携体制を洗い出し、地域住民の相談を一括して受けられるよう組織体制の再編・再構築についての取り組みを推進すること。

決議書については東伊豆町ホームページにて掲載
<https://www.town.higashiizu.shizuoka.jp/>
 ホーム＞町政・議会＞陳情・要望＞意見書・決議書



国においては、令和2年4月に高齢者の保健事業と介護予防の一体的改正法施行、令和6年度には市町村で事業実施を義務とする等、保健事業と介護予防の一体的な実施に関する取り組みを進めている。少子高齢化が進む中、展開する当町においても、地域住民が不安を感じることなく元気に暮らしていくために、担当課にヒアリングを実施し、第1回定例会にて町民の福祉向上に向けた取り組みに関する決議書を提出しました。

事業継承、後継者問題を調査

一総務経済常任委員会



漁業・農業の事業継承について今後も調査を行う

総務経済常任委員会では、コロナ禍で疲弊した町内経済の状況を引き続き調査しつつ、観光業にも関連の深い農業者や漁業者へのアンケート調査を実施しました。その結果、事業継承や後継者問題がクローズアップされたため、この問題を重視し、所管事務調査として現状把握に努めています。

Q 任期中やり遂げたことは

A 伊豆東部総合病院の存続が実現したこと



くす やま せつ お 議員
楠山 節雄



移転を引き留めた伊豆東部総合病院
(現：康心会伊豆東部病院)

Q そのほかにも、基金の積立額の目標額を確保できたのでは。

A 県からも指摘されていた10億円の目標達成ができた。

Q やり残したことは。

A 給食の無料化の完全実施や高齢者対策としての送迎システムの構築ができなかったことは心残り。

Q 町政運営上の反省点は。

A 自分としては精いっぱい町民を思い事業執行してきたつもりなのでない。

Q 熱川支所の廃止問題も含め、議会や町民とのコンセンサスが得られてきたか。

A 理解をいただけよう努力したが、コンセンサスが得られなかったとしたら不徳の致すところと反省する。

Q 今後の町政に引き継ぐことは。

A 新町長の考え方が基本だが、大学やNPO法人との連携、移住定住の施策をお願いしたい。

Q 3回目のワクチン接種は

A 2月から集団接種で実施している



うち やま しん いち 議員
内山 慎一



ワクチン接種会場の様子

Q 町内の感染者数の状況は。

A 感染者数の総数112人、うち今年に入ってから感染者数は46人。

Q 3回目のワクチン接種のスケジュールと使用するワクチンの種類は。

A 65歳以上は2月中は2病院で、3月からは役場と保健福祉センターで行い、その後18歳から64

歳の集団接種を実施する。5歳から11歳は希望者に、3月19日、4月9日に実施の予定。ワクチンの種類はファイザー社製とモデルナ社製の2種類を使用。

Q 感染者やその家族・事業所へのフォローをどう考えているか。

A 県と連携して、安否確認や生活支援、食料支援などを考えている。事業所へのフォローの考えはない。

Q 町独自で、無料のPCR検査や抗原検査を考えているか。

A 県が委託して、下田市、ドラッグストアウエルシア河津店や今井浜病院で無料で実施している。町は検査体制を整えていく考えはない。



やま だ なお し 議員
山田 直志

Q 水道整備工事の再点検は

A 3号井の積極活用などを検討



稲取地区の配水を担う3号井

Q 昨年質問した水道ビジョンに基づく水道整備工事の再点検・事業チェックはどうなったか。

A バックアップ用としていた3号井の有効活用や新白田浄水場のダウンサイジングなど、適切な施設能力となるよう見直しながら進めている。

Q 水源の見直しは良い事。しかし、今後20年で人口は44%の減少、また資材の高騰と人手不足で整備コストは上昇している。なお一層の経費削減・見直しが必要では。

A 見直しは続ける。災害時のサイレン活用については、避難が必要な避難指示などの事案が発生した場合等活用している。

Q 町民とのルー化や情報共有が必要ではないか。

A 対応したい。第5次東伊豆町総合計画の検証は、283施策で完了20事業、着手中212事業、未着手45事業、その他10事業となっている。

Q 議会に提出、共有するようにしてほしい。

A 提出したい。

そのほかの質問

Q 細野高原の保全や整備に関するふるさと納税を

A 観光協会等と協議しながら検討したい

Q プレミアム率100%商品券の考えは

A 事業効果が乏^とぼと考える



す ね だ ま さ ら 議員
須佐 衛



第2弾がはじまった「知ってる街に泊ってみたい」キャンペーン

Q 一連の「知ってる街に泊ってみたい」キャンペーンの事業実績は。

A 第一弾の町民向けプランは750万円の予算額満額だったが、郡内町民向け、姉妹都市の岡谷市向け等は未執行額が大きい。

Q 町民向けプランのうち宿泊に利用されたのは3割程度で、食事利用が

Q 風車の撤去が未だされないが、町有地貸付料は入金されたか

A まだされていない

Q 軍用機の低空飛行についての対応は

A 県及び自衛隊に申し入れは行った

Q 多かった。飲食店を圧迫していないか。

A そういうことはない。

Q 9月補正の緊急誘客補助金のうち1千万ほど未執行額があるが、それらを活用してプレミアム率100%の発行を検討してほしい。他市町事例を見ると、世帯対象ではなく一人何冊配るといふ形が主流だ。また、大型店の利用もできる「共通券」の考え方もあるが。

A 次の町長に委ねたい。

～意見書を提出しました～



意見書は
こちら

第1回定例会において1件の意見書を可決し、国及び関係行政庁へ提出しました。

意見書については東伊豆町ホームページにて掲載
<https://www.town.higashiizu.shizuoka.jp/>
 ホーム>町政・議会>陳情・要望>意見書・決議書

意見書案第1号

国際法に反するロシアのウクライナ への軍事侵攻に対する意見書

去る2月24日、国際社会の懸命な外交努力にもかかわらず、ロシアはウクライナへの軍事侵攻を開始した。これは力による一方的な現状変更の試みであり、ウクライナの主権と領土の一体性を侵害する明白な国際法違反であるとともに、国際秩序の根幹を揺るがす行為として断じて容認できない。

ロシアは核兵器大国であることを誇示し、国際社会からの批判や制裁の動きに対抗する姿勢を見せている。これは、核兵器で国際社会を威嚇するものであり、今日の世界において、決して許されるものではなく怒りを込めて非難する。さらに、今月4日にはウクライナの同国最大原発を攻撃し制圧した。万が一にも原子炉が破壊されれば、福島原発やウクライナのチェルノブイリ原発の重大事故をはるかに超える放射能による世界規模の大惨事につながる危険がある。

また、国際経済において、軍事侵攻の影響を受け、原油や小麦など生活の基盤となる物資が高騰している状況にある。コロナ禍で国民の生活や経済活動が停滞しているなかでこうした事態は、国民の暮らしを直撃し経済的に破綻しかねない状況である。

このような現状に鑑み、以下の点に取り組まれることを強く要望する。

- 1 ロシアのウクライナからの撤退の要求や現地邦人の安全の確保等、国際社会との連携を図りながら、世界平和の実現に向けて最大限の努力をすること。
- 2 原油や小麦など生活の基盤となる物資の高騰を受け、政府として安定的な供給と価格を抑えるための施策を早急に講じること。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

令和4年3月7日

静岡県東伊豆町議会

議案名	採決結果	楠山節雄	笠井政明	※稲葉義仁	栗原京子	西塚孝男	須佐衛	村木脩	内山慎一	藤井廣明	鈴木勉	定居利子	山田直志
意見書案第1号 国際法に反するロシアのウクライナ軍事侵攻に対する意見書	可決(9:1)	○	○	—	欠	○	○	×	○	○	○	○	○

○賛成 ×反対

※議長は採決に加わらない ※欠は欠席

～一部事務組合からのお知らせ～

し尿処理施設の延命化工事がはじまります

し尿処理施設は昭和63年の竣工から33年が経過し、老朽化も著しいことから施設の延命化と運営の効率化に取り組みます。令和4・5年度の2か年で循環型社会形成推進交付金を活用し基幹的設備改良工事を実施します。総事業費は9億5千5百万円となります。

東河環境センター議会



老朽化した
し尿処理施設

伊豆斎場がリニューアルしました

令和2・3年度の2か年にわたり行われた斎場の長寿命化改修工事が完了しました。総事業費は4億円で、3炉を2炉としながら炉自体を刷新、さらに待合室の洋室化や間仕切りの設置、トイレの改修等がされました。なお、ベッドをおいた小ルームも設けられ、着替えや具合の悪い方などにも対応できるようになりました。

伊豆斎場組合議会



火葬ホール



待合室

新はしご付消防車が配備

令和3年中の町内の火災・救急出動は火災9件、救急848件となりました。

令和4年度は、東伊豆消防署に最新鋭の15m級はしご付消防車が新しく配備されます。町で購入したものが古くなり、これまでは中古の消防車が配備されていました。

駿東伊豆消防組合議会



新しく配備される
消防車

地域住民に寄り添う医療を

令和4年度にADL訓練室(日常生活動作訓練)が開設されます。言語聴覚室(会話、発声、食事等)と合わせて、リハビリテーションでの在宅復帰率90%を目指して取り組みます。

下田メディカルセンター組合議会



かがやく まちのひと

Vol.9

ダイロクキッチンで、地元食材を活かして週末カフェ Cafe&Kitchen 六也ーろくなりーを開いている星野海輝也さん取材しました。



Cafe&Kitchen 六也ーろくなりー

星野海輝也さん



地元のイチゴを使ったフルーツサンド

六也の営業日については
NPO 法人ローカルデザイン
ネットワーク (LDN)
のホームページにてご確認
ください。



<https://www.dai6kitchen.com/>

―出身はどちらですか。
伊東市川奈の生まれですが、今は稲取に住んでいます。

―どんな縁で稲取に。
静岡大学のフィールドワークで稲取を訪れ、荒武さんと知りあいになったことです。

―開業のきっかけは。
大学を休学して、海外留学を考えていましたが、コロナで行けないまま時が過ぎ、親に頼るのは嫌だと思い知り合いに

なっていた荒武さんをお願いして稲取にきました。元々飲食店の仕事に興味があったので、ダイロクキッチンでの試運転となりました。

―どんな挑戦をしていますか。
農家の手伝いをするなか、地元の素晴らしい食材、例えばイチゴやキウイ、金目鯛などが地元ではあまり食べられずにいることを知りました。そういった食材を活用

し、地元愛を伝えていきたいです。

―開店後の反響は。
半分以上が地元の方で、リピーターの方もいます。食材についてのアドバイスやレシピも教わっています。

―今後、どんな料理の提供を予定していますか。
これまではイチゴやキウイを使ったサンドイッチを提供していましたが、4月からは旬の地元食材を利用したパスタなど、よりボリュームのある料理にも挑戦したいです。

編集後記

太田町長の任期満了に伴い、次年度からは新しい町長による町政運営がはじまることとなります。一方、高齢化の進展や少子化、人口減少に加え、新型コロナウイルス感染症による産業の疲弊など、課題は尽きません。

東伊豆町が住民にとって将来にわたり明るく楽しく暮らせる町であるために何をすべきか、皆さんの声をうかがい、議員間で話し合い、町長や町の職員の方々と協力し合いながら智慧を絞り、少しずつでも確実に未来に向け進んでいくよう努力していきます。

(稲葉)

議会広報編集委員会

委員長	笠井政明
副委員長	栗原京子
委員	稲葉義仁
委員	西塚孝男
委員	藤井廣明
委員	山田直志